



読書は、一人のよう
で一人ではない。本
を書いている人との
二人の時間である。
(斎藤孝「読書力」)

燈火親しむの候



「秋田県読書フェスタ」開催

10月12日(土)～19日(土)の期間中に、県内各地で読書の楽しさを伝える取組が行われました。ここでは、秋田市の県立図書館・児童会館・生涯学習センター会場のイベントを紹介します。

12日 めいぐるみといっしょにおはなし会 めいぐるみのおとまり会

児童会館で行ったおはなし会には、約60名の親子が参加しました。その中で、お気に入りのめいぐるみと一緒に参加した子どもたちは、めいぐるみを一晩預け、おとまりさせて帰りました。翌日、県立図書館に迎えに行くと…。めいぐるみたちは、図書館で絵本を読んで遊んでいた写真と、お気に入りの絵本を持って、子どもたちを待っていました。



めいぐるみたちが読み聞かせごっこをする写真をプレゼント



カウンターでめいぐるみと再会し、絵本を手渡される子ども

14日・19日 ビッキーと読み聞かせ

県では、プロバスケットボールbjリーグの秋田ノーザンハピネッツと連携して読書を推進するための活動を行っています。今回、読書を勧める「GO!GO!ビッキー」の絵本ができたので、マスコットキャラクターのビッキーも登場して、お披露目の読み聞かせを行いました。その他にも、ハピネッツの選手たちが紹介している絵本の中から、「しろくまちゃん とほっとけーき」「はらぺこあおむし」をボランティアの大学生が読みました。



読み聞かせの後のサイン会



大型絵本を読む大学生たち

19日 サイエンスマジックショー

児童会館の科学実験室で、大曲工業高等学校の先生が不思議な実験を行いました。「空中に立つ車輪」「巨大ペンハムのコマ」「転げるアルミパイプ」などの実演に、子どもだけでなく、大人も見入っていました。中でも、一番盛り上がったのは「空気砲」でした。また、図書室では、科学に興味をもっている人たちのために、テーマ展示を行いました。



見て触って確かめる子どもたち

19日 世界の国の読み聞かせ

児童会館で、国際課の韓国、中国、ロシア、アメリカ出身の国際交流員が、母国の絵本をその国のことばで読み聞かせました。物語の内容を理解しやすいように、絵本をプロジェクターで映し出し、外国語の後に日本語訳がありました。参加した子どもは、「外国の言葉は不思議な感じがしたけれど、絵本は面白い話だった。」と話していました。



リラックスして楽しむ参加者たち

19日 絵巻ラポート

県立図書館と公文書館が所蔵する貴重な資料を使って、それぞれの職員が解説しました。図書館からは、「御曹子島渡り」と佐竹家に伝わった「三十六歌仙」の絵巻、公文書館からは、「秋田県行政文書」と「御城下絵図」についてのお話がありました。江戸時代の絵図と現在の地名を比べて、職員に熱心に質問する参加者の姿も見られました。



絵図をのぞき込む参加者たち

19日 葉っぱを使ったしおり作り

昨年好評だった葉っぱを使ったしおり作りを、今年も生涯学習センターで実施しました。あきたエコマイスターのみなさんが中心となって玄関ホールで行いました。ブナやもみじを台紙に載せてラミネートし、好きなリボンを選んで結べば、オリジナルしおりのできあがり。参加者は「思いがけず、すてきなしおりが作れました。」とうれしそうでした。



83名がしおり作りを体験

県内各地でも読書フェスタ **図書館や公民館図書室が仕掛ける読書イベント**

フェスタの期間中、県内のあちこちで読書を楽しんだり読書活動を考えたりするイベントが行われました。イベントマップに掲載した中から4つの取組を紹介します。

大館市立中央図書館
12日(土)

ビブリオバトル in 大館市立中央図書館

ビブリオバトルは「知的書評合戦」とも言われる、本のプレゼンテーションバトルです。市内高校生、一般図書館利用者、図書館職員の5名が、面白いと思った本を持ち寄って発表しました。1作品につき、5分間の紹介と2分間のディスカッションを行い、最後に発表しない参加者も含めて全員で「もっとも読みたくなった本」を投票で決めました。この日のチャンプ本に選ばれたのは「三月は深き紅の淵を」(恩田陸・著)でした。図書館では、今後も定期的実施していく予定です。

本の魅力を紹介する発表者たち



能代市立図書館
19日(土)

講演会「家読(うちどく)で読みニケーション ～読書で深める家族の絆」

能代市立図書館は、「家族で読書」のコーナーを設置し、親子で本に興味をもってもらい読書活動の推進を行っています。今回、佐川二亮氏を講師に講演会を行いました。学校関係者や図書館ボランティアなど約30名が参加し、家読による子どもの成長や家族の触れ合いの時間の増加などの効果について耳を傾けました。鶴形小学校の皆川校長先生は、「私の他に、教頭先生と図書担当者も講演を聞いたので、同じ時間を共有し心に響いたものを、これから還元しようと思っています。さっそく、勧められた本を5冊購入しましたよ。」と話していました。

講演会の様子



※家読(うちどく)とは、「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」することを目的としています。

羽後町立図書館
14日(月)

子ども司書養成講座

今年度、羽後町立図書館では、町内の小・中学生を対象に司書養成講座を実施しています。7回目となるこの日は、司書体験に19名が参加しました。カウンターに座って図書の貸し出し、配架ルールに従った図書整理、本を紹介するポップ作りなどを行いました。参加した子どもたちは、「図書委員の仕事に役立てたい。」「本や読書が好きだから。」「図書館での仕事が楽しそうだから。」と理由はそれぞれでしたが、みな一生懸命に活動に取り組んでいました。

カウンター作業体験とポップ作り



東成瀬村児童館図書室なるせ

18日(金)

ブックカバーでエコバッグ作り

公民館図書室と放課後児童クラブ「虎の穴」の共催で、ブックカバーを使ったエコバッグ作りが行われました。参加したのは1、2年生9名。子どもたちは、両面テープを使って、あらかじめ選んでおいた大きな写真やイラストの入ったブックカバーをバッグの形に整えていきます。最後にひもをつけると、あちこちから「できた!」という歓声が上がりました。お気に入りの本のカバーで作ったバッグに大満足の子もたちは、「今日、これに本を借りて行っていい?」と早速活用していました。

自分が作ったバッグに大満足



9月の「打って出る司書」

<訪問した市町村立図書館・公民館図書室の数>

県北	県央	県南
6館室	4館室	14館室

後半の市町村巡回訪問が始まりました。前半の訪問から半年経過した取組を見ながら、他館の実践など、様々な情報提供を行っています。

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>